

2022年 新年ご挨拶 2~6

| | | |
|-----|-----|-----|
| 会長 | 中 本 | 晃 幸 |
| 副会長 | 武 田 | 平 雄 |
| 副会長 | 立 石 | 一 修 |
| 副会長 | 村 尾 | 文 次 |
| 副会長 | 垣 内 | 村 雄 |
| 副会長 | 齋 藤 | 成 次 |
| 副会長 | 錦 藤 | 成 雄 |
| 副会長 | 織 岡 | 隆 雄 |
| 副会長 | 片 澄 | 弘 二 |
| 副会長 | 瀬 川 | 晋 弘 |

会員企業トップにインタビュー〈27〉二九精密機械工業株式会社 7
「あいうえお」のFUTA・Q 4M+S=29

第27回目は、二九精密機械工業株式会社（南区）に二九良三代表取締役社長を訪問。男女問わず多様な人財が働きやすく伸び伸びと仕事ができる環境を整備することにより、世界でも同社しかできないβチタン合金の極細パイプ製造を始め次々と新しい開発を実現し成長を続けておられる同社の経営についてお話を伺いました。

◀ 二九良三 代表取締役社長

京都工業クラブ 9

- 「ゲノム編集で未来を拓く～広がる用途、産業利用の可能性～」
- 「スマート農業における自動化・ロボット化技術の社会実装」
- 「ウイズ・アフターコロナの世界経済」

事業活動報告

- | | |
|--------------------------------|----|
| デジタルトランスフォーメーション (DX) 講座 (全4回) | 8 |
| 白鷺クラブ | 9 |
| 白鷺クラブメンバー企業 オンライン訪問 | |
| ESG特別セミナー | 10 |
| モノづくりモチベーションアップ講座 | 10 |
| 業務革新研究会 | 12 |
| 生産保全 (TPM) 研究会 | |
| VE (開発・設計革新) 研究会 | |

- 予告 モノづくりフォーラム2022 11

- | | |
|--------------------|----|
| 京都府産業功労者表彰ご受賞 | 13 |
| 京都中小企業技術顕彰優秀技術賞ご受賞 | 13 |
| 新入会員ご紹介 | 13 |
| ゴルフ同好会 (KIG) だより | 13 |

会員企業における

- デジタルトランスフォーメーション(DX)への取組
～働き方改革と新たな価値の創出～ 3 14

企業においてDX（デジタルトランスフォーメーション）が注目を集め、会員皆様の経営の参考にして頂くため、京都工業会会員企業における積極的なDXへの取組を紹介いたします。第3回目は株式会社エスユースの取組のご紹介です。



年頭所感



会長 中本 晃

新年あけましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症が未だ終息に至らない中での新年となりましたが、会員の皆様におかれましては、つつがなく新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

2021年は新型コロナウイルス感染症が世界中に広がってから二年目となり、ワクチン接種の効果などもあって、2021年の終盤は日本では感染者が極端なほど少ない小康状態となっていますが、その一方で、欧州や米国など海外ではまた感染者が増え、かつ、新たな変異株であるオミクロン株の感染者が急増する傾向にあることから規制が再度強まる状況が生じるなどしているため、日本も、まだまだ感染防止への用心が欠かせない状況にあると思います。しかし、この様なコロナ禍の状態が二年も続くと、経済への悪影響も甚大なものがあり、海外との行き来だけでなく、国内においても人の移動、それに関わる全ての活動が大きく制限された影響は大きく、業種の違いはあるものの、経済の停滞、失業者や貧困家庭の増加といった社会が一段と分断化する様相を呈するなどの極めて大きな課題が突き付けられたままの状態が続いているように思われます。ビジネスや教育の現場でも、対面から非接触を基本とした接客態様やオンラインでの仕事や教育のやり方が大きな比重を占めるようになり、「対話」とか「人ととのふれあい」の機会が大きく減少することによる『人の心の問題』が、これまでになく目につく状況になっていると感じます。私たちは、新型コロナウイルスの感染防止に努める一方で、この様な課題の克服に向けて『分かち合う、助け合う』という人間が古来行ってきたことを、もう一度強く心に刻み込んでいく必要があると思います。そしてその一方では、コロナ禍の中で経験した良いものは積極的に取り入れるようにして、これから自分たちにとって有益となる新しい生活様式なり働き方を構築していくことが大切なことと考えます。

我々企業にとって、この新型コロナウイルス感染症の広がりは大きなリスクですが、これに加えて、米中対立問題（自由主義と権威主義の対立や人権問題などを含め）

また大規模災害につながる気候変動問題などの極めて大きなリスクにどう対処していくかが問われています。

米中対立問題も二ヵ国間だけの問題ではなく、日本そして企業にとっても安全保障とか気候変動さらにはサプライチェーンの問題などビジネスにも広範囲にわたり影響が及ぶ恐れがあり、今や我々企業にも、ますます複雑化する米中をはじめとした「世界を読む力」をつけ、そして適切と判断される手が打てる力を持つことが求められるようになってきていると考えます。気候変動問題すなわち地球温暖化防止は、これまでにも世界中の多くの国が異常気象により引き起こされる自然災害の猛威に晒され甚大なる被害を受けていることから考えても、世界にとっての喫緊の課題であり、各国が様々な脱炭素に関わる目標を打ち出していますが、我々企業も、その実現に向けて、企業間の連携を強め、新規の技術開発に、より一層注力していく必要があると思います。

京都工業会では、モノづくり企業が、この様な変化が激しく混沌とした状態が続く事業環境下で成長していくためのキーは『イノベーションの創出』と『人材育成教育』にあると考え、2021年はイノベーション創出を支援するための「モノづくりイノベーションネットワーク」の構築と「オープンイノベーション」の仕組みづくりに注力し、また高度人材育成のための教育として、AI、ライフサイエンス、新素材など新たな分野の研修を充実させる、組織の変革に必要な「デジタルトランスフォーメーション」に関する連続セミナーの実施などを行ってきました。2022年度も「イノベーションの創出」と「人材育成教育」を基軸に、より一層、内容を充実させて取り組んでいく所存です。

結びにあたりまして、2022年が会員企業の皆様にとって希望に溢れた飛躍の年になることを祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

(株)島津製作所 会長)



年頭所感

副会長 武田 一平

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。会員の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大により一時は開催が危ぶまれた東京オリンピックも7月に開催され、205もの国と地域が参加しました。10月には英国のグラスゴーでCOP26が開幕しました。カーボンニュートラルを推し進めたい先進国側と、経済発展を優先したい途上国側との間で議論は紛糾し、会期が延長される事態にもなりましたが、産業革命前からの気温の上昇幅を1.5℃に抑える事が正式に合意され、世界がコロナ禍にある中でも歩みを感じさせられるニュースとなりました。こうした世界的な広まりを見せているカーボンニュートラルやSDGsに向けた各地域の取り組みは、国家による政策のみに留まらず企業単位にまで及んでおり、カーボンニュートラルに向けた国際的な枠組みである「RE100」には国内外から数多くの企業が参画しています。これは、サステナブル社会の実現というものが企業の果たすべき社会的責任の一つであるという共通認識が世界規模で浸透し始めている証拠であり、企業の経営戦略における不可欠な要素としても捉えられ始めています。

さて、当工業会の皆様におかれましては、わが国の歴史と文化の中心地である京都で育まれた多種多様な伝統技術をDNAとして、独創的で先端的な事業を起業され発展させてこられました。様々な変化が起こる中で、今後とも互いの強みや知恵を活かし、切磋琢磨しながらイノベーションや新たな企業活動の展開に繋がればと願うところです。

当社は、あらゆる電子機器に搭載されるアルミ電解コンデンサ、EV/HV用フィルムコンデンサ、蓄電システム、V2HシステムやEV用急速充電器等を社会に提供させていただいております。これらは、5G通信やIoT分野、EV等の普及やサステナブル社会の実現に寄与する製品であり、より良い地球環境を実現し明るい未来社会づくりに貢献するものと信じております。

このような企業活動を展開していく上でも、当工業会の活動方針に沿った産学公の連携をさらに深めていきたいと考えています。引き続き関係各位のご協力とご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

京都工業会会員皆々様にとって明るく輝かしい一年となりますよう祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。
(ニチコン株)会長



人間の可能性を信じて踏み出す明るい未来

副会長 立石 文雄

新年明けましておめでとうございます。2021年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症の猛威は収まることなく、引き続き私達の社会や経済を脅かし続けた1年でした。そうした中、オリンピックが57年ぶりに東京で開催されました。各国の選手が力の限りを尽くし競い合う姿、そして健闘を称え合う姿は、コロナ禍で苦しむ全世界の人々に多くの勇気と感動をもたらしてくれました。

次々と変異株が発生しており、私達はまだまだ当分の間、コロナと向き合った生活をしていかなければなりません。しかし、私達はコロナ禍がもたらす混乱に対し受け身になるのではなく、人間の持つ可能性を信じて、自律的に対応していくことが大事なのではないかと思います。そう感じることにつながったエピソードをこの場を借りてご紹介したいと思います。

コロナが発生した2年前、中国では春節の直前に武漢が都市封鎖となり、弊社のヘルスケア工場がある大連においても感染拡大が危ぶまれる最中にありました。そのような状況の下、中国の社員は、春節を返上して生産計画を整え操業を再開、寸断された物流網を伝い、医療現場に体温計などのヘルスケア製品を届けてくれました。感染リスクが懸念される中、弊社の社員はなぜこのような行動を取れたのか? 共通した答えは「緊急事態において自分に何ができるかを考え、自律的に行行動を起こした」ということでした。彼らの健康を憂い、出社を引

き留める家族との葛藤に心が揺らいだ社員もいました。しかし、彼らはコロナの問題を自分事として捉え、自ら答えを出して行動に移しました。

弊社では創業以来、「よりよい社会づくり」を目指した「企業理念経営」を実践しています。そして「企業理念」を支える価値観の一つとして「人間性の尊重」を掲げています。それは、誠実であることを誇りとし、人間の可能性を信じ続けるということです。私は会長就任以来、毎年グローバル社員と「企業理念」の実践について対話を続けてきました。「企業理念は壁に掲げているだけではなく、事業を通じて実践し、社会に貢献してはじめて価値を生む」と伝えてきました。また「物事は身内の損得ではなく、社会に対する善悪で判断することも訴えてきました。こうした想いの根底には、人間の自律的な思考と行動が事業を一層強くし、「よりよい社会」をつくる原動力になると信じているからです。

コロナと向き合う生活も2年が経ちました。いつ収束するのかと不安に駆られるだけではなく、人の可能性を信じて、明るい未来に向けて一步踏み出していこうではありませんか。

末筆となりましたが、新年を迎えるにあたり、「京都工業会」会員企業様の益々のご発展と皆様方のご多幸とご健勝を祈念いたし、ご挨拶とさせていただきます。
(オムロン株)会長



年頭所感

副会長 村尾 修

新年明けましておめでとうございます。会員の皆さまにおかれましては、今年は久しぶりに穏やかなお正月を迎えたのではないでしょうか。

2021年は新型コロナウイルス感染拡大が収まらず、世の中は停滞ムード一色でしたが、ここにきてワクチン接種率の上昇や厳しい行動制限の結果、ようやく日常生活が戻りつつあります。その一方で、ウィズコロナの中、世界中の経済活動が再開するとともに大きなリスクが顕在化し始めています。資源価格の上昇やサプライチェーンの混乱、そして、それらに起因した世界的な物価上昇がじわじわと経済活動に影響を与え始めています。会員の皆さまにおかれましてもご心配のことだと思います。

岸田新政権では新型コロナ対応は当然のこととして、「成長と分配の好循環」と「コロナ後の新しい社会の開拓」をコンセプトに「新しい資本主義を実現する」を目標に掲げています。政府の今後の施策に期待するところではありますが、コロナ対策により肥大化した財政赤字の削減という重い課題も忘れてはならないと思います。そして、AI、IoT、DX等のテクノロジーの融合により、社会は集中型から分散型へと変化がさらに加速していくことでしょう。この変化の波に乗り遅れることなくサステ

ナブルな成長を実現したいものです。

さて、昨年は、無観客ではありましたが、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、出場選手の活躍は日本中に元気と勇気を与えてくれたと思います。そして、2022年という新たな年を迎えたが、本年も北京冬季オリンピックをはじめ数々の国際的イベント開催が予定されており、さらに世の中が活気づくことを期待するところであります。また、2025年には関西万博が予定されており、特に関西圏においてはインフラ整備等のプロジェクトがあり、関西の果たすべき役割は大きいといえます。

2022年の干支は「壬寅（みづのえ・とら）」です。この干支には、春が来て草木が生じる状態という意味があり、これが転じて「新しく立ち上がること」や「生まれたものが成長する」ということを表すとされています。

2022年はウィズコロナのなか、ニューノーマル（新常态）での新しい成長の礎を築くための年としたいと思います。

結びに、会員の皆さまのご健勝とご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

(株)ジーエス・ユアサ コーポレーション 社長)



新春のご挨拶

副会長 垣内 永次

京都工業会の会員企業の皆さん、明けましておめでとうございます。

令和4年の新春を皆さんとともに祝いできることを心から嬉しく思います。

昨年の京都工業会Newsの新年号では、DXやデジタル化をツールとしてレジリエンスを発揮する年にしようと寄稿させていただきました。

希望的予想に反して、新型コロナウイルス感染が終息したとは言えない状況が継続しています。変異を繰り返す新型コロナウイルスは欧米での感染者数を拡大させ、世界の人々を不安に陥れています。一方で、治療薬の上市も間近との話も聞こえてきています。

少なくとも2022年の前半はこのような不安感が継続する年になりそうです。

加えて言うと、昨年3月に発生した米国南部の大寒波や国内半導体メーカーでの工場火災、コロナ禍による労働力の流動性の世界的減少などにより、モノづくりに欠かせない部材や基幹部品のサプライチェーンが今もなお未曾有の混乱に陥っています。

受注してもモノが作れないという製造業に携わる者として大変悔しい思いをされた方も多いと推察します。

この世界的な混乱は、ロジスティクスの混乱と併せて、長期化するとの予想もあり、製造業に携わる我々としては不安な年明けとなっています。

しかし、コロナ禍や世界的サプライチェーンの混乱は、

未来永劫続く訳ではありません。一喜一憂せずに本来の会社経営の本質に立ち戻り、為すべきことを確実に進めて行くべきです。

コロナ禍により世界はデジタル社会へとさらに進みます。DXは企業だけのテーマでなくなり、社会全体の課題となりました。

また、会社経営の根幹に関わる潮流と言えば、気候変動への対応、カーボンニュートラルへの対応だと考えます。これは世界全体で進んで行く課題であり、我々にも待ったなしの対応を迫っています。

コロナ禍により、世界中がひとつの共通課題に向き合うことを余儀なくされました。これだけの世界規模でひとつの課題に取り組んだ事例は過去になかった現象でしょう。

この現象が世界のデジタル化やグリーン化にも拡がると思われます。世界中が共通課題に取り組むという考え方や流れは、コロナ禍の歴史的意義だったかも知れません。

我々、製造業に携わる企業は言うまでもなく、さらなるデジタル化を進め、気候変動対応を考え実行していくことで、自らの競争力を高めていく一年になるでしょう。

皆さんと一緒に不断の努力を重ねて、実りある2022年にして参りましょう。

(株)SCREENホールディングス 会長)



年頭所感

副会長 齋藤 成雄

明けましておめでとうございます。
2022年はコロナ禍が終息して、心安らかな年となることを心より祈念申し上げます。

2021年は猛威を振るうコロナ禍の中、賛否両論がありましたが、東京オリンピック・パラリンピックが1年遅れで開催されました。

無観客の中、色々な困難やストレスを抱えつつも全力を尽くして挑む選手の姿に感動し、ひと時、コロナ禍の鬱屈感を払うことができました。

さて、2022年の大きな課題は、以下の2つと考えています。

- ① With & After (ウィズ&アフター) コロナの新常態の定着
- ② SDGs対応

① With & After (ウィズ&アフター) コロナの新常態の定着

約2年にもわたるコロナ禍との闘いにおいて、さまざまな課題が噴出し、その解決に取り組み、新たな生き方、新常態が創造されつつあると感じています。

会社においては、在宅勤務やリモート会議、帳票類の紙から電子データ化等々、通常状態では、なかなか進まない改善が一気に進展しました。

そして、その中の多くがコロナ禍終息後も後戻りせずに、さらに推進されるものと思っています。

早く後戻りさせたいものは「対面対話」によるコミュニケーションではないでしょうか？リモートだけですべてが解決するわけではありません。

現場に出て、モノを見て触れて、対面で対話をして、初めて発見する事や発想が広がる事がたくさんあります。対面対話とリモートをバランスよく使い分け、ストレスなく生活や仕事をするためには、考え方や仕組みを変えて、無理せずに継続できるようにすることが肝要と考えます。

② SDGs対応

昨年はテレビなどでも盛んに、SDGs関連のニュースが放送されました。

2015年に国連サミットで採択されたものが、日本ではこの1~2年で、かなり認知されてきたと思います。SDGsで求められる新しい価値は企業価値を量る上でも重要な項目となっています。当社も事業活動とSDGsの関係を明確にした中長期計画を昨年、スタートさせました。

京都が長い歴史の中で繁栄を持続できたのは、時を経ても変わらない普遍的な価値と新たに発現した価値に対して柔軟に対応してきたからだと思います。

その京都の地で、事業を営んできた企業として、新たに求められている価値にも柔軟に対応して、企業価値を高めていくことが大切だと考えます。

結びに「京都工業会」会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

(日新電機株 会長)



年頭所感

副会長 錦織 隆

皆さん 新年あけましておめでとうございます。
COVID-19のお陰で 心も体も凍えきってしまった一年でしたが 少し明るい新年になり 希望が持てるかもしれない年を迎えたこととお慶び申し上げます。

今年こそは マスク無しで行動でき どこにでも自由に行け スポーツに汗を流し 誰とでも話せ 大声で笑って食事ができる年になってほしいと 念願しています。

Virus他 自然界は 強いものだけが生き残り 結果強い変異株だけが残る世界のようです。

しかし人間は違います。お互いが助け合い 強い者だけが生き残るのではなく 全ての人が生き残れる様な社会にするべく 世の中の人々の為になるモノ、コトを作っていくかなければならないと あらためて思っています。

COP26 で地球の温度上昇を 産業革命以前より1.5℃以内に抑えようと 合意されました。

このための大きな課題が 脱炭素 Carbon Neutralということになります。

自動車生産に関わる仕事をしているものにとっては

内燃機関が目の敵にされていて 大問題です。

EV、EVと言われていますが 発電する為にCO₂を出さない様にしなければなりません。

この為に 原子力発電を増やさないでほしいのです。再生可能エネルギー他をもっと増やして…

どうしても作るなら 原子力発電所は 都会の真ん中か無人島で!!

全ての人に 安全第一  ですよ。

内燃機関でも CO₂排出の無い または 増やさない燃料もあります。H₂、アンモニア、バイオ燃料 等。

今後 年限が限られてはいますが 創造しなければならない事が沢山あります。

テレワーク、ウェブ会議ばかりで 体力低下が心配ではありますが 頭脳はフル回転させて これからやって来る DX、Carbon neutral等の新しい時代に 人々の役に立つような もの、コトを創り出そうではありませんか。

創知結集!! これが我々モノづくり集団のすべき事だと思います。

(株)日進製作所 会長)



年頭所感

副会長 片岡 宏二

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、新春を健やかにお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

2021年は、新型コロナウィルスとの闘いを続けながら、如何にビジネスを展開していくか、またそれぞれの暮らしを守って行くか、新たな挑戦の1年となりました。

その中においても、世界情勢は目まぐるしく変化を続けました。2月に入るや、ミャンマー軍がクーデターを起こし、ウンサンスー氏らを拘束しました。4月には米軍がアフガニスタンからの撤退を表明し、2001年9月11日の同時多発テロ以来20年に及ぶ「米国史上最長の戦争」に終止符が打たれました。一方で8月にはイスラム主義勢力タリバンが首都を掌握し、ガニ政権は崩壊しました。日本でも、安泰と思われた菅政権は10月には100代目となる岸田政権へバトンタッチしました。

また例年同様、異常気象や天災も続きました。2月には福島・宮城で震度6強の地震が起り、東日本大震災の記憶を蘇らせました。7月には静岡・神奈川で、8月には九州・中国・北陸地方で集中豪雨による甚大な被害が発生しました。10月には阿蘇山が噴火し、続いて東京で震度5の地震、12月には富士五湖、和歌山でも地震が続き、

列島を震撼させました。また米国でも、ケンタッキー州等6つの州で同時に30以上の竜巻が発生し、甚大な被害を及ぼしました。ここ数年続いている異常気象は、地球温暖化の影響によるものと言われており、各国のカーボンニュートラル2050への取組みに益々拍車がかかる事は間違いないでしょう。

良いニュースでは、何と言っても1年遅れで開催した東京2020オリンピックが成功裏を収めた事ではないでしょうか。日本は過去最多の金27、銀14、銅17、合計58個のメダルを獲得しましたが、開催すら危ぶまれた状況の中、諦めることなく鍛錬を積み、無観客の中で精一杯のパフォーマンスを見てくれたアスリート達の活躍に日本中が勇気づけられたと思います。また、海外の選手団、関係者を最大限の安全と思いやりを持っててなした我が国の精神は海外の選手や報道関係者から大いに評価されました。

今年も暫くは新型コロナウィルスとの戦いは続くと予想されますが、人類の叡智と医療・科学技術の進歩により間違なく安寧を手に入れる事と思います。本年が会員皆様にとりまして、良い1年となります事を祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせて頂きます。

(株片岡製作所 会長)



年頭所感

副会長 瀬川 晋弘

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、ワクチン接種が進み秋頃から感染収束の動きが見られましたが、モノづくり企業にとっては前年に続き厳しい環境であったというのが実感です。

東京オリンピックを挟み9月までは感染拡大による企業活動の制約の影響を受け、10月以降は半導体に代表される材料、部品の調達遅れ、コストアップや原油高の問題に悩まされました。

一方でコロナ禍により必要に迫られ急速に普及したデジタル革命は「生産性の向上」の取組みに一石を投じたと考えています。2019年にスタートした【働き方改革】、時間外労働の上限規制や有給休暇の確実な取得により海外と比較して長時間労働となっている日本にワークライフバランスの考え方を導入するのは労働環境の大きな改善ですが、それを実現するために必要な「生産性の向上」が伴わない企業は淘汰されるという危機感を同時に感じています。当社は子会社を含め180名の社員が4か所（京都、滋賀、愛知、高知）に分散しており、人の移動を伴わず遠隔から業務を行えるオンライン会議、書類、印鑑

を回す時間が不要となるペーパーレス化などのデジタル革命を「生産性の向上」を実現するための取組み、体制づくりに活用できる新たなツールとして捉えています。

当工業会の中小企業委員会に於いてオンライン参加が可能になった事により参加企業数が増え、更に活発な情報交換ができるようになった事もプラスに働いた事象の一つだと思います。中小企業見学会は、引き続きオンライン訪問が主体となりますが、昨年は訪問先企業様のご協力により映像、動画を交え分かりやすく説明して頂き、有意義な見学会となりました。

経済センター西側の鉾町にて50年近く祇園祭の離子方を務めています。平安時代から続く1200年の歴史の中で応仁の乱、第二次世界大戦、阪急電鉄地下工事で中断した山鉾巡行が、まさかこのような形で令和の時代に中断するとは思いもよませんでした。今年の夏はコロナ収束に目途が立ち、例年通り都大路に山鉾が並び、京都経済が復活することを願いながら、新年のご挨拶とさせて頂きます。



(旭光精工株 社長)

■会員企業トップにインタビュー 〈27〉

「あいうえお」のFUTA・Q
4M+S=29

二九精密機械工業株式会社

二九精密機械工業株式会社 プロフィール
 創業: 大正6年(1917年)3月1日
 資本金: 6,750万円
 社員: 230名
 住所: 京都市南区唐橋経田町33-3
 業種: 精密・微細金属加工

代表取締役社長 二九 良三氏

「あ・明るく、い・意思を強く持ち、う・運が良いと思いつみ、え・縁を大切にして、お・大きな夢を持ち、Man(人)・Material(素材)・Machine(機械)・Method(工程)の4Mに+Skill(技)が組み合わさってFUTA・Qの技術が確立する」と信念を持ち、元気で、明るく、社員の能力を自由に引き出している二九社長にお話を伺いました。

—御社の概要について教えてください。

今年で創業105年目となります。100年近くはステンレスの請負切削が中心で、お客様から図面をいただき多品種少量生産と試作部品を作るなどニッチな仕事をしていました。現在は、微細なパイプの製造も手掛け、半導体、分析・計測、医用分野等の装置のコアパーツや医療機器、産業機器の製造を行っています。

— β チタンパイプの製造を手掛けたきっかけを教えてください。

元々、ステンレス切削が中心だったのでパイプ生産は外注してお客様へ納めていました。パイプメーカーも通常1ロット何百トンという単位で製造するので、当社からの依頼は外注先工場の空間に作ってもらっている片手間の仕事でした。このため当社の顧客要望に応えられる品質も揃わず、正直なところ先方にとっては面倒な仕事で、頼み込んで作ってもらっている状況でした。そんな時、採血管のノズルを納品していた客先から、「ステンレスは曲がりやすい。曲がっても形状が元に戻る金属でノズルを作れないか」という相談がありました。『できない』と断るのは嫌な性格なので何とかしたいと思っていた時に、よくしなるメガネの「つる」部分の素材を一般産業に応用できないかと考えつきました。そして、以前より取引のあった福井県の企業と共同研究を行うことになりました。タイミング良く京都府の戦略的共同支援事業にも採択され、パイプ製造設備の導入も実現し、チタンでの極細パイプ作りに取り組むことができました。試行錯誤を重ね思うような製品ができるまでには開発から約10年かかりましたが、切削の請負企業からニッチなパイプメーカーになることが出来ました。

—会社は今後どのような方向に進むのでしょうか

これからは、手のひらより小さなモノ、指先に乗るような微細なモノを試作から製造する方向に進んで行きます。軽くて高強度、しかも高い弾力性に優れた β チタン合金は、ステンレスより5倍以上に長持ちして、この極細パイプを作れるのは、世界でも現在は当社のみです。お客様は血球計測分野ではグローバルマーケットシェア50%以上を押さえる大手企業等が中心で、PCR検査装置、手術用ロボット等に当社の製品が使用されています。また、この極細パイプの内面の状態を確認したいとの要望にお応えするため、このパイプの中身を調べる検査装置の開発も行い、今後はこの装置の販売も計画しています。

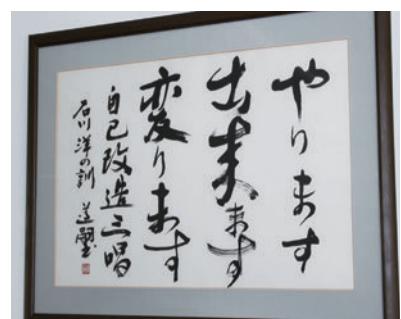
—新しい開発が次々と実現できるのはなぜですか

男女問わず様々な経験を積んできた多様な人財が集まり、働きやすく伸び伸びと仕事ができる環境を整備してきたことが大きいと思います。当社では、『家族が一番、仕事は2番』です。まずは、家族の事を最優先して働いてもらっています。女性の活躍にも力を入れ、大企業でも珍しいと思いますが、子供が小学校を卒業する迄、時短勤務を行える制度を5年前から導入しています。男性でも子供が1歳になるまで育児休暇を取った社員もいます。休暇を取りやすくするために、同じ仕事ができる社員が複数名いるようにしています。家庭の理由等で人財を失う事は、もったいないと考えていますので、そうならないように社内整備を行っています。また、社員の最高齢者は75才で、本人の意欲と健康であれば働き続けてもらいます。中途採用も積極的に行い、今年度だけでも既に新卒を含め41名を新規に採用しました。産業雇用安定センターから紹介いただいた大企業からの出向者などには、これまでの経験を生かして、人財のマネジメントや開発の責任者になっていただき、伸び伸びと働いてもらっています。以前の社内環境は、人を責める風土がありました。今では社員の良い所を伸ばすことに力を注ぎ、働きやすい環境作りに取り組んでいます。中途採用の人でも働きやすい環境を整え、新しい仲間たちと互いの能力をフルに活かしてもらう事で、どうしたら「この問題を解決できるのか」「実現したいと思っていることが形となるのか」を追いかけています。



—今後の抱負を教えてください。

今は次のステージに上がるための準備期間と捉えています。当社の売り上げは今期40億円ですが、5年以内に100億円達成を目指しています。まずは、計画して実現するためには、何が必要なのかを考えます。新しい人財も加え、今行っているモノづくりを深堀りして、一緒に取り組む企業のパートナーとして、今は世界中のどこにもない安心安全を確認するための新しい検査装置を開発し世に送り出すことで、目標を達成したいと思い、また、それができると信じています。



デジタルトランスフォーメーション(DX)講座 開催報告

コロナ禍において非接触、非対面が進展し、社会が大きく変容する中、データ化すること、見える化すること、活用することなど、DXが今後のモノづくり企業の経営において重要なテーマとなっている。そこで今回、DXの本質的な理解や製造業における効果的な取組事例、今後の展開について、この分野の第一人者や先行する企業代表者の方々を講師にお招きして4回に亘る連続セミナーをオンライン（Zoom）にて開催した。

第1回

【日 時】令和3年11月12日(金)

【参加者数】15名

【テー マ】デジタル変革による新サービス創造と実践に向けて

【講 師】名古屋商科大学ビジネススクール 教授

澤谷 由里子 氏

【概 要】

近年議論されているDXは、「1960年代から徐々に使われ始めた情報技術活用が、効率化・最適化から本当の意味での効果・価値創造の段階に変化してきている」ことを示す。既に情報技術を使いこなし、新しい価値創造をしている企業も多く、様々な企業事例から、イノベーションが人間中心デザインになってきている。組織の枠を外して、顧客体験に焦点を当てることで新たなサービスが生まれるきっかけとなり、さらに技術者は顧客の気づいていない未来を共に創ることが可能となる。新サービスを創造していくには、実践から学ぶことが重要である。また、デジタル変革による急激な変化など、あいまいさが高い条件下では、デザイン思考により、実践しながら学ぶアプローチが最も効果的である。

デジタル変革による新サービス創造の事例紹介をいただきながら、実践するための思考法・着眼点について解説いただいた。



第3回

【日 時】令和3年12月2日(木)

【参加者数】15名

【テー マ】モノづくり中小企業のDX推進について
～株式会社アイデンのデジタル化推進～

【講 師】(株)アイデン 社長 池内 保郎 氏

【概 要】

アイデンが抱えていた3つの課題 ①人手不足 ②技能継承できない ③労働集約型産業を解決するために、下記のデジタル化に取り組んだ。



○CADデータのまま配線作業者へ連携
(技能の見える化)

○ハーネス製作の機械化

(24時間生産による労働集約からの解放)

○設計データをそのまま作業手順書データとして活用
(製品品質が安定)

○作業者の成果をリアルタイムで数値化
(リアルタイムの進捗管理およびスキルアップや改善)

デジタルデータの活用で、制御盤づくりのプロセスが見直され、外国人労働者でもスキルアップが可能となり中小企業が抱える労働力の諸課題の解決につながった。更にデータに基づく制御盤づくりは、職人の配置にしばられないことからペトナム進出のきっかけとなった。

第4回

【日 時】令和3年12月10日(金)

【参加者数】15名

【テー マ】HILLTOP株式会社のDX推進！
～楽しくなければ仕事じゃない！～

【講 師】HILLTOP(株) 副社長 山本 昌作 氏

【概 要】

人は刺激的な知識労働によって成長できると考え、従業員が創造的な仕事に注力できるよう、ルーティンを徹底的に無人化する取組を行っている。ルーティン労働から解放するために、DATA化・標準化による数値化、数値のないものはマニュアル化することによって、見える化を図った。自分が持っているノウハウを人に伝えていくことで、新しいことに取り組むことができるようになり、豊富な経験、個人のレベル向上を実現できる。DXの基本は情報の整理整頓であり、企業内デジタルとナレッジマネジメントに取り組むことで、どんな作業も作業レシピを見れば誰でもできるようになった。会社の利益よりも従業員のモチベーションを重視しており、自発能動が企業を変革させると考えている。チャンスは平等であり、とにかくやってみることが大事である。

「ゲノム編集で未来を拓く ～広がる用途、産業利用の可能性～」

広島大学大学院 統合生命科学研究所 教授
山本 卓氏

ゲノム(Genome)とは遺伝子(Gene)と染色体(Chromosome)を組み合わせた言葉で、生物が持っている全遺伝情報である。講演では、ゲノム編集の原理・ツール・技術について解説され、続いてゲノム編集の可能性として、○生命現象の解明 ○疾患モデル細胞や動物の作製 ○創薬や遺伝子治療 ○農水畜産物の品種改良 ○バイオ燃料の開発等を挙げ、その具体例を紹介された。安全面・倫理面等で懸念はあるものの、ゲノム編集はSDGs達成に不可欠な技術であると述べられ、様々な分野で大きな可能性を持つゲノム編集について理解を深めることができた。



「スマート農業における 自動化・ロボット化技術の社会実装」

東京大学大学院 情報理工学系研究科
知能機械情報学専攻 教授
深尾 隆則氏

農業就業者の減少・高齢化が課題となり、ロボット化・自動化の必要性が言わされている。講演では、単なる作業者の置き換えではなく、ロボット化・自動化による省力体系の構築として、発展目覚ましいロボティクス技術を用いた様々な事例を紹介された。農業では栽培方法との融合も重要であり、人工知能・計測・制御・機械・農学の融合による農業のロボット化は益々進むと思われるが、システム化と枠組み作りの総合的視点が必要であり、また技術進化が早まり世界的な競争が激化する中、产学共創・产学連携の人材育成が急務であると述べられた。



「ウィズ・アフターコロナの世界経済」

(株)日本総合研究所 調査部
マクロ経済研究センター 所長
石川 智久氏

2021年の世界経済は半導体不足などの供給制約を主因に年後半に回復ペースが鈍化した。講演では、今後は供給制約の緩和や積みあがった家計貯蓄が消費を下支えするため回復傾向が続く見込みであるが、政策効果の剥落、雇用回復の遅れ、ワクチン格差等から成長率は緩やかにスローダウン。当面は底堅い成長が見込まれるもの、新型コロナの変異株の感染拡大に加え、インフレ、資産バブル、過剰債務等リスクも多く、不透明感が強い中での景気回復となる、との見通しを述べられた。中長期的なテーマであるカーボンニュートラル、デジタル化や万博を控えた関西経済についても触れて、今後の経済展望を非常にわかり易く解説をいただいた。



白鷺クラブ 10月例会 開催報告

日 時：令和3年10月12日（火）

参 加 者：26名

内 容：白鷺クラブメンバー企業 オンライン訪問

会員企業である2社をオンラインで訪問し、社長御自身で自社の概要についてご説明いただいた後、工場内の設備や稼働状況と特に各社が注力している取組などについて、事前に撮影した映像と共にご説明いただいた。

＜株式会社中川パッケージ＞

代表者：中川 仁 氏

所在地：京都市右京区西京極畠田町55-1

創 業：明治37年 設立：昭和18年

資本金：3,000万円 従業員：70名

業 種：段ボール、プラスチックダンボール、フィルム梱包材等の製造販売

段ボールは競合他社との差別化が難しい商品であり価格競争に陥りがちである。それを打破するために、モノを包むことにこだわりを持ち日本で初めての緩衝材となる「モクメン」を製造した当社の創業の基本に立ち返り、ペン先でつついても破れにくい新しい緩衝材を開発し、モノを包み魅せるパッケージ「キュービックフローター」の開発に取り組み、展示会などで好評いただいている。また、環境への配慮が必要な時代となり、スチロールなど強度が強く安価で加工しやすい梱包材の使用量が極端に少なくなり、次世代の梱包材が求められるなど顧客の要望も変化しており、ニーズに対応したフィルム梱包材が注目されている。コロナ禍で物流がさらに重要となるなど時代の変化に対応して、お客様からご相談いただける企業になれるよう、伝統と革新でチャレンジし続けていきたい。



工場内を説明する中川社長

＜株式会社丸山製作所＞

代表者：丸山 栄三 氏

所在地：京都府久世郡久御山町森川端89-1

創 業：昭和34年個人創業 設立：昭和46年

資本金：2,000万円 従業員：40名

業 種：切削加工

一言で言うと「丸い金属部品」。当社は旋盤加工品を通じて世の中のものづくりに貢献している。「遊び心で技術の追求 削れるものなら何でもチャレンジ。固有の技術の研鑽と新技術の追求で、未来を削りカタチにする」を私たちのポリシーとしている。特に力を入れているのが、品質管理である。「品質管理=出荷検査」から脱却するため品質管理体制・システムを見直し「前/後」の守りを強化している。品質を安定させるための環境を整備し、あらゆる品質管理情報の共有化を実現。これにより、各社員の品質に対する感覚アップを図っている。品質管理課の独特な品質管理月間テーマを、社員全員に分かりやすく伝えるため効果を発揮しているのが「著名人や身近な人物の名言・格言と共に描く絵」である。食堂の白板に遊び感覚をもって自由に描き、前向きな思考に繋がればと取り組んでいる。これからも様々な工夫を重ね、社員全員でワンチームとなって突き進んで行きたい。



白板を使用した品質管理の伝達例

ESG特別セミナー 開催報告

開催日：令和3年11月29日（月）

参加者：30名

会 場：京都工業会（オンライン併用）

脱炭素化に伴い国内外で急速に取引が拡大しているESG金融について、本セミナーを開催した。

講演1：「ESG金融の最新情報と製造業への期待」

（株）大和総研 金融調査部

SDGsコンサルティング室長 主任研究員 太田 珠美 氏

SDGs・ESG投資を専門とされる立場から、ESG金融の国際的な動向や企業の対応について講演いただいた。

日本でも近年ESG投資が急速に増し、企業でもそれに対応してESG指標の情報開示が進んでいる。また機関投資家やメガバンクだけでなく、地域金融機関でもESG要素を考慮する動きが始まっている。

ESG要素の情報開示について、格付会社での評価や、企業向けのガイドラインを紹介された。またESG要素はSDGsの各目標と関連があり、社会全体のサステナビリティを目指す点で共通している。中堅・中小企業でもサステナビリティ経営の取組事例が増えているが、気候変動対策や人権保護問題に対してサプライチェーン全体の取組が求められていることもあり、ESG評価もサプライチェーン全体で行うようになりつつある。

以上の内容について関連する企業の取組事例についても紹介いただいた。

講演2：「ESGと京都の地域金融の今後」

（株）京都銀行 経営企画部

広報SDGs室長 猪熊 清統 氏

地方金融機関の視点から地域企業をどのように支援して行くかについて講演いただいた。

脱炭素化・環境対応など企業の社会的責任が高まる中、事業を通して社会課題を解決するSDGsへの対応が重要となり、また課題についてサプライチェーン全体での対応が求められる等、経営環境の変化について説明された。そのような状況で、企業はSDGsに取組むことで社会課題に対応すると共に、企業イメージの向上や新たな事業機会創出などの可能性を得る。

これから取組を始める多くの中小企業では、SDGsを理解し、課題・目標を設定し、経営戦略へ落とし込むというプロセスが必要となる。地域金融機関としては、情報提供や取組診断など支援策を提供することにより、企業のSDGsの取組全体をサポートする。

講演を通じESG金融の現状と今後について理解が深まると共に、工業会としても情報提供などの面で引き続き取り組んでいく必要性を感じた。

モノづくりモチベーションアップ講座 開催報告

開催日：令和3年12月3日（金）

出席者：15名

会 場：京都工業会（オンライン併用）

■ 講 演

「従業員エンゲージメントを高める」

同志社大学 政策学部 教授 太田 肇 氏

IT化・ソフト化、グローバル化で能力重視の社会になり、社員のモチベーションアップがますます重要視されるようになった。能力を重視することは、受け身の働き方では通用しなくなったといえる。つまり、「やる気の天井」を破る必要がある。一方、給与や役職など、動機付けの資源が減少しているため、意欲と能力を引き出す新たな仕組みづくりが必要である。改革のポイントとして、①分化 ②自律（自立）③フラット化 ④オープン化 ⑤認められる機会を増やす、の5つが挙げられる。

仕事をどう「分ける」かについて、①職務型（ジョブ型）②専門職型③自営型の3つの方法がある。現状では、「メンバーシップ型」を基調に、「ジョブ型」の要素を取り入れようとしている企業が多いが、新たな潮流として「自営型」が広がりつつあり、これからはメンバーシップ型、ジョブ型、自営型が併存していくのではないかと考えられる。また、プロジェクトチームの多用や社内FA制度の導入による自律（自立）、組織の末端までの権限委譲による組織のフラット化、Uターン採用や副業の容認によるオープン化等がポイントとなる。さらに、自己肯定感の向上や職場内の信頼関係を築くために、奨励型、HR（Human Relations）型などの表彰等で認められる機会を増やすことが重要である。

■ 講 演

「日東精工における『絆経営』の取り組み」

日東精工（株）

人事総務部 人事課 課長 井ノ元美和 氏

日東精工における「絆経営」とは、事業を通じて広く社会に貢献することを基本方針とし、日東精工にかかわるすべての人が「幸せになるための経営」である。事業活動の原動力は人財と捉え、一人ひとりの多様性に応じた「働きがい」及び「働きやすさ」をバランスよく実現できる制度・風土づくりを目的に、「健康経営」を積極的に推進している。経営理念にも掲げている「健康経営」をベースに「働き方改革」「ダイバーシティ＆インクルージョン」を推進し「すべての従業員が成長・活躍できる会社」を目指すために、2019年にダイバーシティ推進室を設置した。「働きがい」のある会社を目指すために、①自律性を育む風土づくり（制度・教育プログラム・キャリア形成）②価値観の共有③「強み」にフォーカス④ツールの活用（WEB日報など）⑤従業員満足度調査・エンゲージメントスコアの展開に取り組んだ。

具体的には、自己啓発及びOJT教育を柱とし、全従業員を対象としたチャレンジシート（目標管理制度）の活用や学び続ける風土の醸成を目的とした教育単位制度がある。また今後の取り組みとして、価値観を共有するために全職場を対象に研修を実施し、全社員が記載したレポートをもとに行動指針にまとめ、全社に周知する。さらに、やりがいのある会社を目指すために、チャレンジシートに自分の強みを記載し、それを意識したり、WEB日報システムの活用をすることでウェルビーイングに繋げるなどの取り組みを行う。また、独自の従業員満足度調査を実施し、結果を元に必要な環境や施策の提案を行っている。

予告ご案内

モノづくりフォーラム2022

「オープンイノベーションの推進」をテーマとして、講師に、関西学院大学 経営戦略研究科の玉田 俊平太 教授をお迎えして、オープンイノベーション加速のための効果的な人材についてのご講演をいただくとともに、京都工業会の会員企業2社によるオープンイノベーションの事例紹介を行ないます。

とき 令和4年2月3日（木） 13:30～16:00

ところ 京都経済センター 6階 京都工業会 会議室 及び
ZOOMによるオンライン開催

共催 公益社団法人京都工業会

一般社団法人京都知恵産業創造の森

内容

①基調講演

「オープンイノベーションを担う人材とは？」

関西学院大学 経営戦略研究科 教授 玉田 俊平太 氏

②オープンイノベーションの事例紹介

「みなとみらいからの船出 京セラ R&D のオープンイノベーション活動」

京セラ(株) みなとみらいリサーチセンター

研究開発本部オープンイノベーション推進部 大崎 哲広 氏
「自社の強みを生かしたオープンイノベーション推進による新規事業創出」

三洋化成工業(株) 事業企画本部第2研究企画開発部

兼 バイオ・メディカル事業本部 研究部 斎藤 太香雄 氏

参加費 無料（事前申込みが必要）

札幌地ビール SAPPORO

Premium
YEBISU
飲むビ京都
贊スで
沢。を



ストップ！未成年飲酒・飲酒運転。妊娠中や授乳期の飲酒はやめましょう。
お酒は楽しく適量でのんなあとはリサイクル。④ サッポロビール株式会社

M&Aのご相談は…

京都銀行へ

京都銀行では、企業の成長戦略や事業承継などに対する
課題解決のサポートなど、お客さまのニーズに合わせて
M&A に関する最適なアドバイスをさせていただきます。



M&A
詳細ページは
こちら



飾らない銀行

京都銀行
(2021年12月1日現在)

「きょうと魅力再発見旅プロジェクト」など
ご旅行のご相談・お申し込みはJTBへ!!

感動のそばに、いつも。



「きょうと魅力再発見旅プロジェクト」とは…

宿泊割引や旅行割引、クーポン券の配布を通じて京都府内旅行を楽しんでいただき、地元を応援する
観光庁の「地域観光事業支援」を活用した京都府のキャンペーンです。

【割引適用期間】～2022年2月28日(月)宿泊分まで（ただし、「Go To トラベル」再開時点での終了となります。）

【割引対象】京都府内宿泊商品及び京都府内での宿泊を伴う商品（3連泊まで／ビジネス目的の利用は不可）

【割引対象者】京都府、大阪府、兵庫県、滋賀県、奈良県、福井県居住者

（居住地を確認できる証明書とともに、ワクチン接種証明又は陰性証明の提示が必要です。）

※京都府民の方は大阪府、兵庫県、福井県へご旅行の際も、それぞれの府県の制度に応じた割引等を受けることができます。

最新情報は
JTBホームページへ



JTB京都中央支店 TEL.075(284)0175 FAX.075(284)0155

〒600-8421 京都市下京区綾小路通烏丸西入童侍者町 167 A Y A 四条烏丸ビル 2F 営業時間 9:30～17:30／土・日・祝日休業

◆業務革新研究会 活動紹介

[生産保全（TPM）研究会]

アドバイザー：(株)高橋事務所

(元京都機械工具(株)常務執行役員)

高橋 文彦 氏

生産保全（TPM）研究会・10月例会では、新川電機(株)より「回転機械を対象とした、振動の傾向管理」についてご講演いただいた。

[講演内容] (10月22日分・抜粋)

◇振動による状態監視の必要性

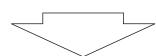
- ・異常振動や異音に気付かず運転すると回転機械は故障し、最悪の場合、生産工程がストップする可能性もある
- ・状態監視により異常予兆を検知できると、故障を未然に防ぎ、最小限のメンテナンスで復旧できる
- ・振動（振幅と周波数）計測により、対象機械の状態に合わせた保全措置を行うことが可能

異常兆候の
早期発見
※突発トラブル
を防ぐ

余裕をもった
メンテナンス計画
※事前のスケ
ジュール管理
が可能

最小限の
メンテナンス
※オーバーメンテ
ナンスを防ぐ

『生産停止のリスク低減』



『生産性の向上』

[VE（開発・設計革新）研究会]

アドバイザー：バリューアップ研究所

(元 シャープ(株)参事) 谷 彰三 氏

VE（開発・設計革新）研究会・11月例会では、参加企業から提供のあった題材を基に実践演習を行った。

[演習内容] (11月11日分・抜粋)

◇アイデア発想手順

①アイデア発想機能の決定

機能評価段階で決定した優先順位

②アイデアの発想

その機能を果たすにはどうしたらよいかを考えてアイデアを発想する

今回は、ブレインストーミング法を活用

・批判厳禁、自由奔放、量を求む、結合改善

③アイデアの略図化

アイデア発想で得られたアイデアは、抽象的な表現で内容が漠然としている内容が多い。また、テーマとかけ離れているように見えるアイデアが含まれていることもある

アイデア内容をテーマに近づけ具体化するためにアイデアを略図に表す

一つのアイデアから複数の略図を描いたり、複数のアイデアを組合せて略図を描くなどして、アイデアを発展させることが重要



THE SHOT

好きを楽しむ、はじまりに。



「好きを楽しむ」
情報公開中



飲酒は20歳になってから。お酒はおいしく適量を。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与える恐れがあります。飲酒運転は絶対にやめましょう。



令和3年度 京都府産業功労者表彰 ご受賞

◇京都府産業功労者特別表彰

株村田製作所 会長 村田 恒夫 氏

◇京都府産業功労者表彰

旭金属工業(株) 社長 山中 泰宏 氏

このほど、「令和3年度 京都府産業功労者表彰」を、本会関係で2氏が受賞されました。

会員各位とともに、心よりお祝い申し上げます。

令和3年度 京都中小企業技術顕彰

優秀技術賞 ご受賞

◆(株)積進 (社長:田中 安隆氏)

心よりお祝い申し上げますとともに、益々のご発展をお祈りいたします。

新入会員ご紹介

(第332回理事会で承認されました。)

正会員

(株)オスカーカヤマト印刷

代表取締役 中村辰靖

〒601-8390 京都市南区吉祥院流作町31
TEL.075-313-3513 FAX.075-315-2663
広告・印刷業

(株)阪村機械製作所

社長 中野孝之

〒613-0035 京都府久世郡久御山町下津屋富ノ城46
TEL.0774-43-7000 FAX.0774-46-3255
生産用機械器具製造業
冷間フォーマー、温間フォーマー、熱間フォーマー、
ロータリー式ねじ転造機、フォーマー部品、圧造金型、
フォーマー関連機器

K.I.G

ゴルフ同好会
(KIG) だより

▶令和3年度第4回例会（第235回例会）結果

とき: 令和3年11月17日(水)

ところ: ジャパンエースゴルフ俱楽部

参加者: 24名 (内 シニア9名)

優勝 堀内 永次氏 (株SCREENホールディングス)

準優勝 山中 真吾氏 (株ジャパンオートパート24)

3位 山下 直毅氏 (京都樹脂精工株)

B G賞 伊藤 博一氏 (株)伊藤製作所



いつでも、あなたの
ビジネスのそばに。

京都中央信用金庫

本店/京都市下京区四条通烏丸西入ル

www.chushin.co.jp

事業をつなぎ、
人をつなぎ、
想いを繋ぐ

アトツギ
支援



京都信用金庫

事業承継のことは京信にご相談ください

京都市下京区四条通柳馬場東入立売東町 7番地 TEL(075)211-2111



京都工業会 会員企業における DXへの取組 ～働き方改革と新たな価値の創出～ 3

株式会社エスユース 取締役 エンジニアリング事業・AR/VR事業管掌 ソリューション事業本部 本部長
大槻 哲也

株式会社エスユース

本社：〒600-8008 京都市下京区四条通烏丸東入ル長刀鉾町8 京都三井ビルディング5階
社長：齋藤公男 設立：1999年9月1日
資本金：4億3,117万円 従業員数：1,691名
ソフトウェア（機械、電気、電子、化学分野における技術者派遣、及び開発請負（開発、設計、解析、評価）、AI・AR/VR分野の研究・開発、AI搭載マッチングシステム「SUZAKU」の販売

【はじめに】

株式会社エスユースは、約1700名のエンジニアが在籍する技術集団で、お客様に対し技術課題の解決や改革をサポートする企業です。

今回はコロナ禍で急増したDX・メタバースニーズの事例をご紹介いたします。

【DX推進の背景】

社会的課題である「技術者不足」の解決方法として、これまで緩やかに進んでいたDX化が、コロナ禍における「非接触コミュニケーション」の必要性もあり一気に加速しました。

具体的には、新型コロナウイルス感染拡大により、大学のオープンキャンパスや進学相談会などのイベントが相次いでオンラインへと移行しました。しかしその多くは、オンライン会議ツールを活用した一方通行のものや、webサイトに動画や360度画像のVRコンテンツなどを配置し、それを視聴するだけのものでした。

エスユースでは、重要なことは「双方向でのコミュニケーションを伴う場を体験することだ」と仮説検証し、会社説明会や新入社員と先輩との交流などをバーチャル空間で実現しようと構築しました。参加した学生からは、コロナ禍、孤独であった就職活動においても、友達と一緒に参加できたことでコミュニケーションの活性化につながった、助けになったと好反応を得ました。

【弊社人事担当者の声】

エスユースでは、自社のエンジニア採用活動をオンライン一本化し、バーチャル空間での企業説明会に大転換しました。オンラインのみの採用活動は、使用する側にも参加する側にも様々なハードルがあると考えていましたが、メインターゲットとなる20代を中心としたデジタルネーティブ世代はゲーム感覚で容易に習得できたようです。

さらに、多くの企業が集まる就職フェアでは、他社との差別化が図れるだけでなく、バーチャル説明会は記憶に鮮明に残るため、説明会から直接に移行する確率が上がりました。非接触ということで学生にも安心していました。

時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方を促進し、テレワーク主体となっても採用活動や在宅ワークの生産性をあげることができました。

■360°空間を体験できるVRの優位性
2週間後の記憶の定着率（=印象の強さ）



【採用以外の活用例】

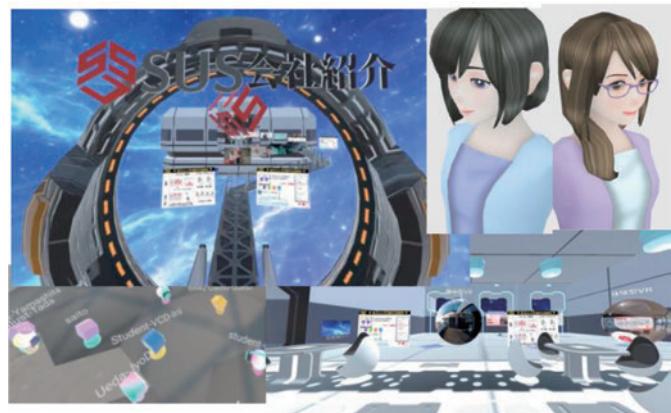
大学などからはオープンキャンパスのバーチャル化などプロモーションに関するご相談が多く、企業からはメタバースを活かした訓練やバーチャル会議のシステム導入など、アフターコロナ（コロナが収束した後の世界）でも活用できる「現実の代替えを超えたメタバース」のご相談を数多くいただいております。今では、企業説明会のほか、合同企業説明会、学校説明会、研究発表会・展示会などでもご利用いただいているいます。

【今後の取組み】

エスユースグループでは、米国EON Reality社によるAR/VR開発プロセスの全分野を網羅した世界基準のカリキュラムを使用し、独自教育プログラムを構築いたしました。次世代技術を通じて「人と企業の笑顔が見たい」という経営理念に基づき、技術者のアウトソーシング以外でも、様々な課題をソリューションするために、臆さず新たな技術革新に取り組んでまいります。

（メタバース商品「VRカンファレンス」の特徴）

エスユースの非接触メタバースプロダクトである「VRカンファレンス」では、以下のことが実現できます。



- ・VR空間内をアバターが自由に移動できます。
- ・VR空間でアバターを介して双方向音声会話チャットができます。
- ・3Dモデル、画像、動画などを空間内で共有し、PDFやPC画面を表示できます。
- ・外部サイトへリンクすることも可能です。
- ・Webベースのため、アプリインストールは不要です。



京都工業会ニュース No.409

2022年1月20日発行

発行 公益社団法人 京都工業会

〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78番地
京都経済センター6階
TEL.075(353)0061 FAX.075(353)0065
URL : <http://www.kyokogyo.or.jp>
E-mail : info@kyokogyo.or.jp